

報道関係者各位

2021年9月10日  
慶應義塾図書館  
丸善雄松堂株式会社

## 第33回慶應義塾図書館貴重書展示会

# あつ いにしえ 蒐められた古 —江戸の日本学—

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

【会期】2021年10月6日（水）～10月12日（火）9：00～21：00（最終日は16時閉場）

【会場】丸善・丸の内本店4階ギャラリー

〒100-8203 東京都千代田区丸の内1-6-4 丸の内オアゾ内 TEL (03)5288-8881

入場  
無料

「慶應義塾図書館貴重書展示会」は、慶應義塾図書館が所蔵する数ある貴重書を毎回テーマに沿って展示し、一般の方々に公開しております。毎年多くの来場者にお越しいただき今年で第33回を迎えます。

### ■ 展示会の見どころ

第33回となる今年は、慶應義塾図書館が所蔵する近世期の国学者橋本経亮（つねすけ）の旧蔵資料「香果遺珍」を中心に、江戸時代の日本に華開いた好古と蒐集の文化に関する資料80点を展示します。なお、「香果遺珍」は2020年度末に整理が完了したばかりで、**本展示会が初公開**となります。

江戸時代の日本では典籍・書画・文書・器物（模写や模造を含む）など多彩な資料を集め、正しく理解しようとする好古の文化・学問が大きく発展しました。

本展示会では多数の初公開資料を通じて、経亮をはじめ松平定信・本居宣長・上田秋成・藤貞幹・屋代弘賢・狩谷掖斎・谷文晁・三熊花顔など、近世期の日本人による自国のいにしえをめぐる知的営みを探ります。



本展示会が**初公開**となる「香果遺珍 風箱」。  
ここに収められた資料を中心に、選りすぐりの資料を展示します。

【ギャラリートーク開催】

(要予約／先着順・各回 20 名まで・入場無料)

本展示会監修者、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授 一戸 渉が展示物を解説します。

○10月8日(金) 18時～

○10月10日(日) 14時～

◆9月27日(月) 午前10時～、予約受付開始(予定)

[https://libguides.lib.keio.ac.jp/mit\\_annual\\_exhibition](https://libguides.lib.keio.ac.jp/mit_annual_exhibition)

※サイトからの予約のみ受け付けさせていただきます。

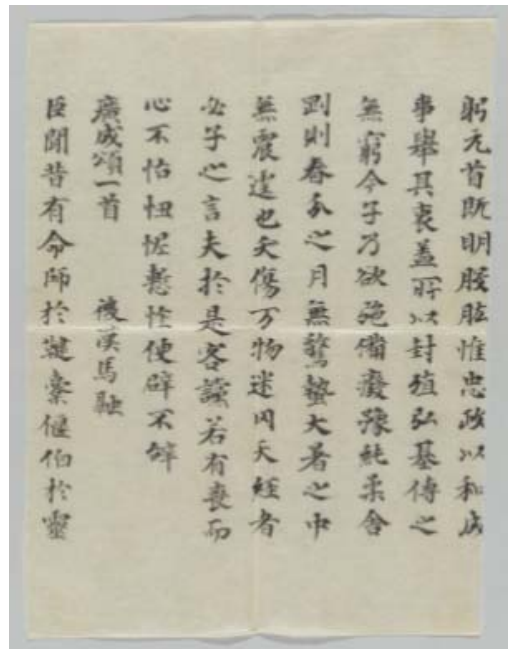
※丸の内本店店頭での予約はお受けいたしかねますのでご注意ください。

■主な展示品

唐 許敬宗奉勅編『文館詞林』存巻第348

(寛政12年(1800)写 模写弘仁本)

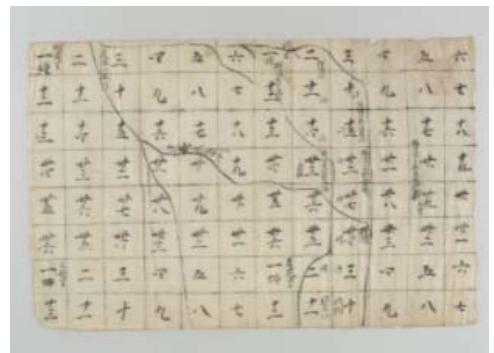
『文館詞林』は唐代に編纂された勅撰漢詩文集で、中国では宋代に失われ本邦にのみ伝わった佚存書(いつぞんしょ)です。このたび慶應義塾図書館の所蔵する近世の国学者橋本経亮(1759～1805)の旧蔵資料「香果遺珍」の中から発見された『文館詞林』の零巻零葉群は、弘仁14年(823)に宮中の校書殿で作成された写本に基づいて江戸後期に経亮の周辺で作成された模写で、その中には従来知られていなかった佚文が含まれていることが判明しました。写真に掲げた零葉の右から7行分は馬融「上林頌」の末尾89字と見なすことができ、後漢時代の新出の佚文ということになります。本展示会では新出部分を中心に香果遺珍中の『文館詞林』の模写資料を複数出陳します。



〔山城国上野庄差図〕

(〔鎌倉後期～室町〕 東寺旧蔵)

現在の京都市西京区にあった東寺領荘園である上桂(上野)庄及びその周辺を描いた新出の差図で、東寺百合文書中に関連する文書が存在することから、この文書ももとは東寺に伝わり、橋本経亮が近世期に譲り受けたものと推定されます。鎌倉期における桂川の河道の変遷に関する記載があり、中世日本の荘園史研究上重要な差図と考えられます。なお香果遺珍中には東寺旧蔵の上野庄の差図が他に2点含まれており、いずれも新出資料です。



## 寛政造内裏紫宸殿中戸上負文亀

(〔江戸後期〕)

甲羅に吉祥文を持つ負文亀の濃彩画。天明の大火による焼亡を経て、復古的造営がなされた寛政度内裏では、紫宸殿での天皇の御座所の背後に立てられる賢聖障子も図様がさまざまに改められました。幕府儒官の柴野栗山らの考証に基づき、絵師住吉広行が寛政4年(1792)に完成させたものは、中央上部にそれまでの蓬莱図に替えてこの負文亀が描かれています。本図は現存する寛政度内裏の賢聖障子とも概ね図様が一致することから、広行による腹案ないし下書きであった可能性があります。旧蔵者の橋本経亮は朝廷に出仕する非蔵人でしたから、そうした縁で入手したものかと推察されます。



## 橋本経亮自筆『橘窓自語』『続橘窓自語』

(〔享和元年(1801)～文化初年頃〕写)

近世後期の京の国学者である橋本経亮(1759～1805)の主著といえる考証随筆『橘窓自語』正統の自筆稿本です。著者の見聞したさまざまな資料や人物に関する逸話、有職故実に関する考証など内容は多岐にわたります。『鼠璞十種』や『日本随筆大成』に活字化されているものはすべて転写本に基づいたものですが、今回新たに発見された著者自筆本には伴蒿蹊筆の評語や、従来知られていなかった記述なども認められ、資料的価値が高いものといえます。



### 慶應義塾図書館貴重書展示会情報

[https://libguides.lib.keio.ac.jp/mit\\_annual\\_exhibition](https://libguides.lib.keio.ac.jp/mit_annual_exhibition)

### 丸善・丸の内本店イベント情報

[https://honto.jp/store/news/detail\\_041000056204.html?hsv=ce0b2ee2658450674067427499fc4e61](https://honto.jp/store/news/detail_041000056204.html?hsv=ce0b2ee2658450674067427499fc4e61)

お問い合わせ

丸善雄松堂株式会社 経営管理部 広報担当 川澄 Tel: 03-6367-6006